

『魔女の宅急便』

角野 栄子／著 林 明子／画
福音館書店（2002 年）

十三歳になった魔女のキキは、ひとり立ちをするため、生まれ育った家を出ました。黒猫のジジと一緒に海の見える大きな町にやって来たキキは、パン屋さんの粉置場を借りて、『魔女の宅急便』を始めます。しかし、おとどけものをなくしてしまったり、「船の煙突の腹まき」のおとどけものを頼まれたり、初めての宅急便の仕事は大変なことがたくさん起こります。果たして、キキは無事に1年を過ごし、里帰りの日を迎えることができるのでしょうか。



『下鴨アンティーク 1 アリスと紫式部』

白川 紺子／著 集英社 オレンジ文庫（2015 年）

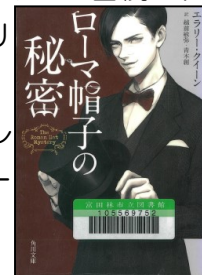
今日の着物のコーディネートテーマは「鏡の国のアリス」市松格子の紬に黒猫柄の帯。17歳の野々宮鹿乃は、一年前に亡くなった祖母のアンティーク着物を休日に着るようになります。鹿乃は早くに両親を亡くし、年の離れた兄の良鷹と、離れに住む兄の友人の慧と三人で煉瓦造りの洋館に暮らしています。ある日、祖母に「開けてはいけない」と言われていた蔵を開けてしまうと、着物にまつわる不思議なことが起こります。謎を解き明かす鹿乃。慧のことも気になる高校生です。



『ローマ帽子の秘密』

エラリー・クイーン／著 越前 敏弥／訳
青木 創／訳 KADOKAWA 角川文庫（2013 年）

今夜の劇場も大入り満員だった。芝居は順調に進み、大きな見せ場に入ったとき、異常事態が発生。悲鳴が響き渡り、芝居の途中にも関わらず明かりがついた。警官が席を離れないよう指示を出す。満員の客席から、男の毒殺死体が発見されたのだ。混乱する劇場に現れたのはリチャード・クイーン警視と、彼の息子であり、作家で探偵のエラリー・クイーン。彼らは、「男のシルクハットがどこにもない」ことを指摘した。エラリー・クイーン「国名シリーズ」の第1作目。



『空想科学読本 I』

柳田 理科雄／著 KADOKAWA（2022 年）

アニメやマンガの世界が、この現実に見れたらどうなるのでしょうか。例えば、昔話では動物たちが人間の言葉を話します。浦島太郎では、カメが竜宮城へ誘い、桃太郎ではイヌ・サル・キジも言葉で家来になる約束をしています。現実世界では、人間は話せて、動物は話せません。どうしてでしょうか。そのほか、この本では錬金術師や鬼と戦う部隊について考えられています。今まで不思議だったことが、わかるかもしれません。これまでのシリーズから厳選して再集録するシリーズ第1作目。



『京都岡崎、月白さん』

人嫌いの絵師とふたりぼっちの姉妹』

相川 真／著 集英社 オレンジ文庫（2020 年）

七尾茜が高校一年生、妹のすみれが小学一年生の春に二人の父親が亡くなります。母親はすでに亡く、親のいない二人は、遠い親戚の久我青藍に引き取られます。青藍は若き精鋭の天才絵師で、月白邸に住んでいます。月白邸は京都の東山にある広大な屋敷で、そこには絵具商の紀伊陽時もよくやって来ます。太陽のように明るい陽時と、人嫌いで少し影のある静かで優しい青藍に見守られて、茜とすみれは日々を過ごします。月白邸に関わる色々な人の物語の始まりです。



『ムーミン谷の彗星』(ムーミン全集[新版]1)

トーベ・ヤンソン／著 下村 隆一／訳
講談社（2019 年）

ある日、ムーミントロールが目を見ますと、空も、川も、木々も、すべてが灰色になっていました。じゃこうねずみは、怖がるムーミントロールに地球がほろびると言います。ムーミントロールも友だちのスニフも不安でいっぱい、遊びに行く気にもなりません。ムーミンパパは、そんな二人に天文台に行くことを提案します。たった二人で天文台へ星の観測に行くことになったムーミントロールたちの冒険が始まります。

